

真っ赤な彼岸花があちらこちらで咲きはじめ、秋のお彼岸となりました。
ご存じの事でしょうが、秋しゅう分ぶんの日を中心にした一週間は秋のお彼岸です。

お彼岸は日本独自の仏教行事として平安時代から続いています。

お彼岸には、御先祖さまや親しい方のお墓参りをします。このお墓参りがとても大切な行いなのです。

普段、私たちは何気なく生活していますが、今、私たちがここに生きているのも、多くの御先祖さまの命を受け継いでいるからなのです。そう思うと、自然に感謝の思わいが湧いてきます、そして受け継いだ自分の命がとても尊とうといものに思えるのです。

お墓の前で心静かに手を合わせ、御先祖さまに思はいを馳せる。また、親しい方との思い出を振り返る。その行いが私たちの心を豊かにし、そして、命の尊さについて改めて考える事が出来るのではないのでしょうか？

お彼岸中にお墓参りをするという事は、多くの命に感謝をし、私たちの生活の中で、自分自身を見つめ直すことが出来る大切な行いなのです。

仏教用語で「彼岸」とは「彼の岸」。つまり私たちがいる迷いの世界を渡った「向こう岸」、悟りの世界を意味します。

そう言うと、悟りの世界は私たちとは無関係な何か遠いものを感じてしまいがちですが、決してその様なことはありません。私たちの生活の中にこそ悟りの世界があるではないのでしょうか。

道元さまは、

『修行を行う所を「彼岸」というのである。心を込めて修行を行えばそこが「彼岸」、つまり悟りの世界になるのだ。』

と、お示しです。

遠い向こう岸に渡るのではなく、今、ここで生活している私たちが心を込めて修行を行えば、そこが「彼岸」になるのです。

お彼岸には、お墓参りをし、日頃の自分自身を振り返り、心を込めて生活をしたいものです。